

# 日本薬学会北陸支部主催 特別講演会

## グリア細胞から紐解く慢性疼痛メカニズム

講師：津田 誠 先生

九州大学 大学院薬学研究院  
薬理学分野・教授

日時：令和4年1月20日（木）

16:00～17:30（オンライン）

申込：参加ご希望の方は、以下URL  
あるいは右のQRコードより、  
**1月17日（月）**までにお申し  
込みください。



<https://forms.gle/1dn9WQ72HbiXEBBm6>

急性の痛みは、傷や障害の有無を生体に認識させる重要な警告信号である。一方で、がんや糖尿病、帯状疱疹などに伴う長引く痛みは患者のQOLの低下を招くため、治療の対象となる。しかし、痛みが慢性化する仕組みは分かっておらず、加えて、既存薬に抵抗性を示す症例も多い。慢性化した痛みは、神経系に生じる多様な変化に主たる原因があるとされている。その変化は神経細胞のみならず、グリア細胞でも起こる。2000年代初頭からの数多くの研究によって、グリア細胞が液性因子を介して神経活動を変調させることが示され、神経-グリア相互作用が慢性疼痛の発症に重要な役割を担うことが明らかになってきた。さらに最近では、シングル遺伝子発現解析などから、神経細胞とグリア細胞の多様性が判明し、特定の細胞サブセットが有する役割も次々と明らかになっており、慢性疼痛のメカニズムが大きく前進している。本講演では、神経-グリア相互連関から見てきた慢性疼痛の新しいメカニズムを紹介する。

連絡先：金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学（金田）研究室  
TEL: 076-234-4473  
E-mail: nishitani@p.kanazawa-u.ac.jp（担当：西谷）